

オーディオ実験室収載

サウンドマジックガラスボードの導入(4) —ZYX R100-EX での試聴(2)—

1. はじめに

前報(1)から前報(3)までで 3 種類のカートリッジについてサウンドマジックのガラスボードの効果を確認してきましたので、再び ZYX R100-EX に戻り、最適条件を探ってみることにしました。

2. サウンドマジックガラスボードの試聴条件

今回の試聴は、ZYX R100-EX で行い、前報(1)の結果でディテールが良く出るようになったことで Ortofon ST-7 の良さも向上したことからトランスは Ortofon ST-7 を使用します。今回は、ガラスボードを使用したことから、トランスから iPhono への引き出しケーブルを替えてみます。

3. サウンドマジックガラスボードの試聴結果

トランスから iPhono への引き出しケーブルは、これまで LINN のケーブルを常用していましたが、最近はノイマンのケーブルを使用しています。LINN のケーブルは切れ込みが良く、繊細感はあるのですが、やや高域寄りになります。これに対しノイマンのケーブルは中庸で落ち着きのある音がします。今回、他のところから外してきたインフラノイズのリベラメンテを使用してみました。リベラメンテは既に iPhono からプリアンプへの接続に使用して好結果を得ています。

そういう経過でトランスから iPhono への引き出しケーブルをリベラメンテに替えてみると、音楽を生き生きと聴かせる豊かな表情を示してくれます。これまで少し表情が固いと思っていた盤でもこういう音が出るのかという印象で、しばらくこのまま mで聴いて行こうかと思っています。サウンドマジックのガラスボードを使用したことでケーブルの特徴がはっきりしてきたように感じます。

4. まとめ

ZYX R100-EX によるアナログ再生において防弾ガラスに特殊なシートを挟み込んだ合わせガラスのガラスボードをアナログプレイヤー LP-12 の下に敷いた上でケーブルの最適化を行いました。

以上